

栄光の混成競技 春高史に残る大会記録更新

先日の2013年 学校総合大会・インターハイ埼玉県予選において華々しい活躍が光った。昨年、2年生ながら4665点で県内ランキング2位につけていた菅沼が、堂々の活躍を見せ6Kgの砲丸になってからの「大会新記録 優勝 5146点」をたたき出した。春陸の県大会優勝は、競歩の高島（2007）以来か。昨今、春高記録更新した大久保も入山も県では優勝はしていない。それくらい埼玉県大会というのは独特の重圧があるのだ。



総合2位以下を大きく引き離し、7種目を終えてトップの菅沼がラスト1500mをスタートする。

混成の記録は気象条件、競り合う選手によって大きく影響される。菅沼の1500mは昨年4分27秒の快走をみせたが、それを上回るかどうかはわからない。特に混成では1500mを狙った練習はあまりしないのが通常。のこり7種目はダッシュ、ジャンプ、投げなどのパワー種目なのだから当然そちらを優先させるのが必定であるからだ。



先頭集団につき、スタミナ温存してタイム縮小に備える。ゼッケン 91 の主将白岩も粘りをみせる。

1500mとはいえ、痙攣で止まってしまう危険を考えたらロングスパートは意味がない。順位を見つつ、4分30秒くらいで、ラスト100mで安全に追い上げる作戦か・・・非常に安定した定石通りのレース方法で、タイムと着順を確実なものにしていく。痙攣やバテバテ感はなさそうだ。ラストはスプリント能力を活かしたスパートを見せた。フォームもブレなく素晴らしいキックを見せている。



ラスト50mでは前者と3mあった差を詰める。

並んで・・・



少しでもポイントを稼ぐため、素晴らしいラストスパート。一人抜き去った。





「8種競技 結果が出ました。優勝は春日部高校 菅沼君 この記録は大会新記録の様です！」

「おおっ！」スタンドがどよめき拍手があがった。

ハンマーで山崎が自己記録を更新し7位入賞。奥木、天野は9位、10位と惜しくも決勝を逃したが健闘した。

★男子100m決勝



400mRは100mの覇者を有する松山が逆転優勝を飾った。



★関東への課題

終わってみれば混成8種競技優勝、800m6位、ハンマー7位と3種目入賞、関東2名出場という立派なものであった。

個人的には 400mR 43.84、1600mR 3・25・5は素晴らしいと思っている。東部地区で100m入賞なし、200m入賞一人の布陣を考えたら、さすが大塚さんはチーム作りがうまいなあと感じた。110mHも16秒04を筆頭に二人も春高歴代20傑に食い込む好記録で準決勝へ進めたのも素晴らしい。

コンディショニング作りがうまいのである。



800m加藤も0.01秒差で6位を獲得した。この種目、県での順位など関東ではあまり重要ではない競技なので、インターハイへの可能性は十分なチャンスがある。

★関東へ

いずれにせよ、一番大きなプレッシャーの県大会は終わった。

菅沼の弱点は投擲か。

逆に素晴らしいのは100mから1500mまでこなす走力。

言わずと知れた混成の大選手である大塚監督には大きなビジョンがあるに違いない。

まずは地元開催となる関東で大きな収穫を期待したい。

37回　のもと

